

平成 25 年 3 月 28 日

電波利用環境委員会  
CISPR/I 作業班委員各位

## CISPR 32 の国内規格答申の提案について(案)

CISPR/I 作業班主任 雨宮不二雄

### 1. 主旨

CISPR 32 は CISPR 13 と CISPR 22 を統合するとともに、マルチメディア機器のエミッションに関わる諸条件や新たな妨害波測定法等を導入して、平成 24 年 1 月に第 1.0 版が発行された。その後、第 1.0 版の発行の際、意見の対立が激しかったため導入が見送られた幾つかの案件についても国際的な合意が得られてきており、現在、これらの合意事項を第 1.0 版に導入(追加)する形で第 1.0 版を改定(第 2.0 版を発行)するための審議が急ピッチで進められている。

一方、CISPR 32 のベースとなっている CISPR 13 と CISPR 22 は、平成 29 年 3 月 5 日を持って廃止されることが決定しており、その後は CISPR 32 は CISPR 13 と CISPR 22 を置き換える規格として、多種多様なマルチメディア機器等に広汎に適用されるエミッション規格として運用に供される運びである。

このような状況を鑑み、CISPR/I 作業班にアドホックグループを設置し、CISPR 32 の国内答申案作成作業を開始することとしたい。アドホックグループでは、当面、CISPR 32 第 1.0 版を対象として答申案作成作業を進めるが、作業の途中段階で第 2.0 版が発行された場合は、第 1.0 版についての答申案作成作業の進捗結果を、第 1.0 版と第 2.0 版との差分を十分考慮した上で第 2.0 版の答申案作成作業に移管・統合し、最終的には第 2.0 版の答申案作成作業を進めることとする。

### 2. CISPR 32 答申案作成アドホックグループの設置

答申案を作成するため、I 作業班内部に以下のアドホックグループを設置する。

(1) 名称: CISPR 32 国内規格答申アドホックグループ

(2) リーダ: 千代島(I エキスパート)

(3) 委員: I 作業班構成員の希望者及び I 作業班構成員の推薦者等とする。委員案(敬称略)を以下に示す。

- ① CISPR/I 関係者: 雨宮(I 主任)、堀(I 主任代理)、長部(I エキスパート)、廣瀬(同)、青谷(同)、牧本(同)、秋山(同)、平澤(同)他
- ② CISPR/I 作業班構成員の希望者
- ③ CISPR/A 関係者: 篠塚(A 主任)他
- ④ 試験機関等: 三塚(TELEC)、羽田(JQA)、村上(JET)、泉(KEC)他
- ⑤ 放送・通信業界: 濱住(NHK)、沼田(TBS)、秋山(兼:NTT)他
- ⑥ 産業会等: 玉田(JEITA)、醍醐(JBMIA)、青谷(兼:CIAJ)、長部(兼:VCCI)他

### 3. アドホックグループの検討対象

CISPR 32 第 1.0 版および第 2.0 版を検討対象とし、第 2.0 版についての答申案を検討する。

### 4. アドホックグループの作業項目

CISPR 32 の日本語訳、国際規格からのデビエーションの検討、答申案の作成を行う。

### 5. スケジュール

平成 25 年 6 月にアドホックグループを設立し、2 年以内の答申案作成を目標とする。

以上